

市民文芸

短歌

令和元年
阿南市春季短歌誌上大会選

入選

喜来富士子

うらかな真昼の杜のぎざはしをのぼりて吊るす安産の絵馬

入選

川口 節子

散る紅葉諸手をあげて追いかける幼は未来へはばたく如し

入選

賀上 花子

宵闇にフアーツと残れる白木蓮墨絵のさまに亡夫浮かびくる

入選

高尾 久枝

代掻きを終えてほっこり空見れば彼方の雲が茜に染まる

入選

佐坂 恵子

みどりごに笑いかけられわが胸に灯るほのぼの柔らかき虹

入選

京寛 幸美

早世の母の手料理遊山箱思い出さるるレンジ咲く庭

入選

庄野 悦子

九十五のSの字に曲がる母の背よ人生の荷の重くありしか

入選

四宮ちとせ

父と子の笑ひ声聞ゆ玄関に特大の靴ゆつたり並ぶ

入選

井坂 絹子

帰省せし若い親子の遊び声村の空気を弾ませ
ており

入選

棚野 久子

奏でたるメロディー数多浮かびきて弾く指先の微か震えり

俳句

阿南市俳句連合会選

久米 浩一

高々と犬も見上げる揚花火

篠原悠紀子

紫陽花のいろどり深し古都の雨

木元トヨエ

五年ぶりに猫帰り来る夏の朝

富永 恵女

自転車を立ち漕ぎ帰る青堤

表原 清美

息災を願う茅の輪や雨上る

七條クミエ

暁の深き緑に夏の霧

山田 美紀

子等帰り一人夜食の茹小豆

片山 幸美

いたわりを口には出さず生麦酒

松田 桜子

ヘッドランプ一すじとなる暁登山

宮繁ただし

抜けし歯を屋根に投げる子冷し瓜

川柳

阿南川柳会 田上 鶴子選

橋本 征介

ステディの意味を知ってる亀の足

若い頃僕のハートを射つた君

多田紀久代

恋をして心身共に若くいる
老いふたり若さに勝つて気合い入れ
役次第若輩ですと逃げ上手
思考力似ていて友とよく笑う

瀧川 太郎
二階千代美
野口 吾朗
持木 寿栄

一般応募

補聴器も進化で会話よく弾む

島尾美津子

マイカーに小鳥が描くピカソの絵
神様のご褒美ですか猫キラリ

武田 敏子
仁井 信子

漢詩

阿南漢詩研究会・青松社選

富岡西高校甲子園出場を賀す

吉形 和恵

一逮衆目野球郷
文武兼該傳統庠
對峙強豪惟健闘
喚聲鼓舞喜洋洋

一に衆目を速む野球の郷
文武兼該 伝統の庠
強豪に對峙して惟健闘
喚聲 鼓舞 喜び洋洋たり

阿南の郷に老ゆ

陽春桜舞う 角峰の巔
秋夕魚跳ねる 那水の辺
日此の郷を美して 喜寿を迎え
清貧 閑適 残年を惜しむ

陽春櫻舞角峰巔

陽春桜舞う 角峰の巔

秋夕魚跳那水邊

秋夕魚跳ねる 那水の辺

日美此郷迎喜壽

日此の郷を美して 喜寿を迎え

清貧閑適惜殘年

清貧 閑適 残年を惜しむ

鳴門大橋渦の道

大野シゲ子

鳴門橋下走潮湍
俯瞰千尋好景攢
浪上飛鷗加一興
渦邊輕舸楫狂瀾

鳴門の橋下 走潮の湍
俯瞰 千尋 好景攢まる
浪上の飛鷗 一興を加え
渦辺の輕舸 狂瀾に楫とる